



海外駐在員事務所が伝える

グローバルの今

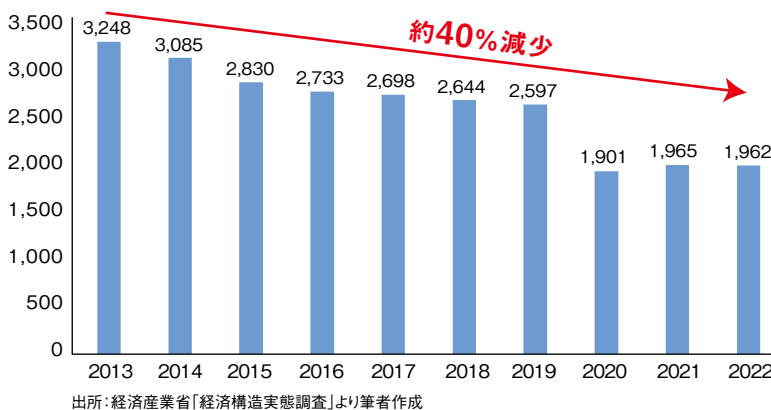
FFGでは、独自のネットワークを活かしてお客さまの海外ビジネスを総合サポートしています。
今回、ホーチミン駐在員事務所の吉永所長に現地の情報やビジネスについて伺いました。

Question 1

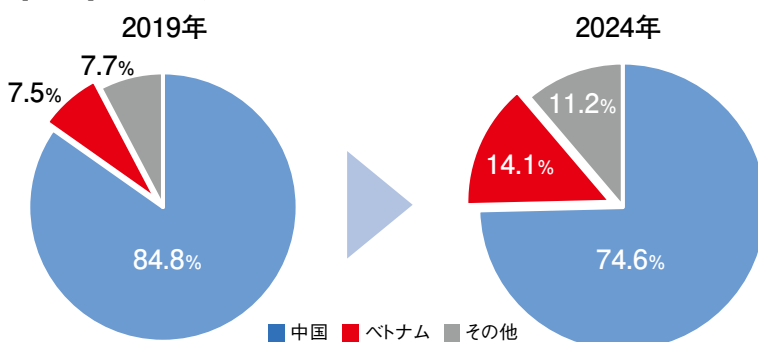
現地の状況について
教えてください

A ベトナムにおいて、鋳物製造は古くから重要な産業の1つです。「鋳物」とは、作りたい形と同じ形の空洞部を持つ型に溶けた金属を流し込み、それを冷やして固める加工方法である鋳造にて作られたものであり、機械部品や

【資料1】日本の鋳物関連事業所数推移



【資料2】日本の国別鋳物製品輸入金額割合



建築資材、日用品にまで幅広く活用されています。その歴史は古く、紀元前4000年頃にメソポタミア地方で始まったとされています。

私たちの住む世界に欠かせない鋳物ですが、日本では製造できる事業所数が年々減っており、2013年から2022年にかけて約40%も減少しています【資料1】。

Question 2

現地企業の声を
聞かせて下さい

A 現地の鋳物工場を営む企業に業界動向等の現地事情について、話を伺いました。

「現地企業の声」

ベトナムでは昔から鋳物産業自体が盛んであることに加え、日本で技能実習生として働き、帰国した人材のように、海外の企業で技術を学んだ経営者や技術者も

【資料1】。事業所減少の影響で、日本国内ではこれまでできていた製品の調達ができなくなるといった状況に直面しており、安定的に調達する方法の1つとして、海外からの輸入にも目が向けられています。日本の最大の鋳物輸入相手国は中国ですが、近年ではベトナムからの割合も増加しており、2019年から2024年にかけて全体に占める輸入金額の割合は7.5%から14.1%に増加しています【資料2】。

増えており、製品の品質レベルも高まっています。大型の鋳物製品を製造できる規模の大きな工場の数も増えてきました。大型の鋳物については、日本では対応できる工場が減っていると聞いており、日本企業からの受注も増えていきます。ベトナムで最も主流な製造プロセスは砂と粘土で鋳型を作る「砂型」ですが、石膏などを使った鋳型で精度を高めた「ロストワックス」や、金型に高圧注入することですらに高精度が期待できる「ダイカスト」での製造を行う工場も増えてきており、以前に比べて提供できる製品の種類が増えています。

課題としては、精密な製品になると品質がまだまだ追いついていないことや、原材料を中国等の海外から輸入していることが多いため、発注企業が期待するほど製品の価格メリットが出ないことです。

課題はあるものの、品質レベルは以前より向上しており、日本企業のニーズに対応できる工場も増えています。技術指導への期待

Question 3

駐在員事務所の活動事例を紹介して下さい

【A】 ホーチミン駐在員事務所では、ご相談の多い鋳物の他にも、日本の対ベトナム主要輸入品目である繊維品、日用品から大型のコンベアに使用する鉄骨のようなものまで、幅広い分野での製品調

【資料3】ベトナムの砂型鋳物工場の様子



も含めて、日本企業と仕事をしたいベトナムの経営者は多いため、ベトナムからの製品調達に興味があれば、ぜひお声掛けください。
【資料3】

Question 4

海外ビジネスを目指すお客さまへメッセージをお願いします

達サポートを行っており、昨年度は新たに27社の工場と具体的なコンタクトを取りました。チャイナプラスワンの候補として、ベトナムで調達先を探したいというご相談を数多くいただいております。工場のリストアップから商談の調整・アフターフォローまで対応させていただいております。

【A】 ベトナムでは「日本企業は一度取引が始まると長く取引が続く」との考えから日本企業との取引に意欲的な経営者が多く、商談の打診を行うと喜んで応じてくれるケースが大半です。取引を通じて日本企業からの技術指導があれば、今後、更なる成長も期待できます。ベトナムからの製品調達に興味がありましたら、ぜひ取引店の担当者にご相談ください。



現地のおすすめや過ごし方を
ご紹介ください

私の住むホーチミンから飛行機で1時間ほどの距離に、標高約1,500メートルの高原に位置するダラットという都市があります。年中真夏のホーチミンとは違い、気温も涼しく過ごしやすいです。高地の気候を利用したお花や野菜の栽培が盛んで、ホーチミンで売られている野菜はほとんどがダラット産です。私のお気に入りはダラット駅。駅周辺を花壇が囲んでいて雰囲気良くて、ぶらりと散歩にもおすすめです【資料4】。

【資料4】ダラット駅の様子

